

カナダの BC フェリー乗り歩き

2024.7.4 池田良穂

約 30 年ぶりにアラスカクルーズに乗船のためにカナダのバンクーバーにやってきました。日本からは 8 時間余りの飛行で到着できますので、カリブ海の拠点のマイアミに行くのに比べると体力的にも楽です。

羽田空港を 22 時にでた飛行機は、同日の 15 時にバンクーバーに到着しました。バンクーバーは、長年アラスカクルーズの拠点港となっています。アメリカ領であるアラスカだけを巡るには、アメリカ国籍の客船の必要がありますが、カナダ領のバンクーバーを発着港にすれば、カボタージュ規制を受けないので、どの国籍のクルーズ客船でも運航できます。その利点を生かして一躍現代クルーズのハブのひとつになったのがバンクーバー港でした。アメリカとの国境線近くに位置して、アメリカからの旅客にも便利な場所です。

欠点は、アラスカクルーズのシーズンが、6～10 月まで半年弱に限られること。バンクーバーでは、そのためクルーズターミナル「カナダプレイス」の建設にあたって、クルーズシーズン以外にも活用できるように、国際展示場・ホテルを併設したものにしました。



バンクーバーのクルーズターミナル「カナダプレイス」。クルーズターミナルの上に国際展示場とホテルが併設されています。

さてバンクーバーには、乗船の 2 日前に到着して、カナダ国内のフェリー事情を見ることにしました。バンクーバーの太平洋側には、大きなバンクーバー島が横たわっています。南北に 500km 余

りもあり、面積では九州と同じ程度あり、人口は 90 万人弱です。北米本土との間の海はセイリッシュ海と呼ばれています。規模としては瀬戸内海と同規模で、そこに多くのフェリーを運航しているのが BC フェリーで、BC は州名のブリティッシュ・コロンビアの頭文字です。大小さまざまなフェリーをたくさん航路で運航していますが、これまで乗船する機会はありませんでした。同フェリーは実質ブリティッシュ・コロンビア州が保有していますが、民営化されて運営されています。同社のホームページによれば運航フェリーの隻数は 41 隻あまりで、47 ケ所の港を結んでいます(次ページのマップをご参照ください)。

30 年前に初めてバンクーバーに行った時には、BC フェリーのことを調べもせずに行き、バンクーバーの港で同社のフェリーが見れるかなと思っていききましたが、まったく見かけずに、アラスカクルーズで乗船した「サン・バイキング」の船上から同社のフェリーが航行するのを遠くに見かけただけでした。今回は、しっかりと下調べをして出かけ、丸 1 日を BC フェリーの撮影と乗船にあてることにしていました。

バンクーバーの BC フェリーのターミナルは、市街地からかなり遠く離れた南のデルタ地帯にあるツワッセン港(Tsawwassen)と、北西部の西バンクーバーの辺鄙な入り江ホースシュー・ベイの 2 か所にあります。

まず朝に南のツワッセンの BC フェリーターミナルにでかけました。カナダブレースのホテルからタクシーで 40 分ほどかかりました。デルタ地帯の先に海上道路が長く続き、その先端にフェリー栈橋が並んでいました。ここからはバンクーバー島の南端近くのビクトリア方面に 2 航路、少し北のナナイモ方面に 1 航路があります。

ビクトリア航路(次ページ BC フェリールートマップ中の①)はほぼ 1 時間ごとに、ナナイモ航路(マップ中の③)は 1.5~2 時間に 1 便運航されており、ビクトリア航路は 1 時間 40 分、ナナイモ航路は 2 時間の航海時間で、BC フェリーの運航船の中では最も大型の船が投入されています。

ナナイモからは、バンクーバー港の港口の外にあるホースシュー・ベイへの航路(マップ中②)があり、2 隻が約 1 時間半の航海時間でピストン輸送をしています。

ビクトリアはバンクーバー島内の最大の都市であり、かつブリティッシュ・コロンビア州の州都にもなっています。都市としてはバンクーバーの方が大きいのですが、政治はビクトリア、経済はバンクーバーと分かれているようで、ワシントンとニューヨークの関係にも似ています。

BC フェリーの着くバンクーバー島のシュバルツ・ベイ港(Swartz Bay)からはビクトリアまで高速道路が走っています。筆者が乗船したのはツワッセン~シュバルツ・ベイ直行の大型フェリーですがフェリーターミナルの表示板には「ビクトリア行」と表示されていました。ツワッセンからシュバルツ・ベイまで島々に寄港しながら行くフェリー便もあり、またシュバルツ・ベイ港からは周辺の離島に小型フェリーが運航されています。これらの船の姿を見るのも楽しみでした。

BC Ferries Route Map



ビクトリア航路で乗船したのは「コースタル・セレブレーション」Coastal Celebration で、2007 年にドイツの建造された両頭船の 3 姉妹船の一隻です。21,777 総トンと短距離航路にしては大型で、

1604 人の乗客と、2 層の車両甲板に、乗用車換算で 310 台の車を積むことができます。建造当時は、世界最大の両頭船だったとのこと。運賃は 2200 円ほどでした。同航路は、年間旅客輸送数が約 490 万人、車両数が約 170 万台という一大幹線航路です。

乗船当日は金曜日で、朝 8 時出港の便でしたがほぼ満船状態でした。徒歩客もかなりの数がいきましたが、ほとんどが車で移動や旅行する人のようでした。車の乗船の方が早く、徒歩客として筆者が乗船した頃にはカフェには長蛇の列ができていました。船内に 14ドルで利用できる特別ラウンジがあり、コーヒーやクロワッサンが無料で提供されているとのことでしたので、ここでまずは腹ごしらえをすることにしました。この日はホテルを 6 時前に出て、飲まず食わずの状態でした。

出港後は最上階の風防付きの展望デッキに陣取って、行きかうフェリーの撮影に専念しました。バンクーバー島の周辺は多島海で、うねるように蛇行しながらの航海は爽快でした。



ツワッセンの BC フェリーターミナル。チケット売り場と、棧橋が並ぶターミナルでした。



5 つほどの各棧橋に待合室があり、入港してくるフェリーが見えました。



着岸したフェリーから車が下船してきました。2 層で、上層は乗用車専用です。



ビクトリア航路で往復乗船した「コースタル・セレブレーション」が入港してきました。



船内の旅客スペースです。



船内のカフェには食事と飲み物を求める乗客の長い列ができていました。



14ドルを支払って、特別ラウンジで軽い朝食をとりました。



広いオープンデッキにもたくさん乗客がでていました。



「スピリット・オブ・バンクーバー・アイランド」と反航しました。1993 年建造で、18,790 総トン。2052 名の旅客と乗用車換算で 358 台の車を積みます。



姉妹船の「スピリット・オブ・ブリティッシュコロンビア」で、1992 年建造です。



狭い水道で僚船「クイーン・オブ・ニュー・ウェストミンスター」と反航しました。1964 年建造で船齢はすでに 60 オ。8785 総トン、旅客定員 1303 名、乗用車換算で 254 台積みです。



僚船「サリッシュ・イーグル」は、島伝いにツワッセンとシュバルツ・ベイ(ビクトリア)を結んでいます。2017 年建造の両頭船で、8261 総トン。600 名の旅客と、乗用車換算で 138 台の車を積めます。



バンクーバー島に近づくと、多島海の航海が始まりました。



バンクーバー島周辺の離島を繋ぐ「スキーナ・クイーン」は両頭型の日本の離島航路でもよく見かけるタイプのフェリーです。1996 年建造、2653 総トン、旅客定員 441 名、乗用車換算で 92 台を積みます。



貨物フェリー「シースパン・トランスポーター」。民間の貨物フェリーも運航されているようです。



シュバルツ・ベイ港の栈橋には綱取りの人員はおらず、船上から綱がとれる簡易自動綱とり装置が設置されていました。



ツワッセン港に戻ると、「スピリット・オブ・バンクーバー・アイランド」が停泊し、船体には「LNG ガス燃料」との表示がありました。

折り返し、同じ船でツワッセン港に戻り、12 時 45 分発のナナイモ行きフェリーに乗り換えまし

た。同航路は、年間旅客輸送数が約 160 万人、車両が 73 万台。船は同型船の「コースタル・インスピレーション」で、カフェに並んで昼食にカレー料理を購入しました。ビールも売っていました。食後は、コーヒーを買って最上階の展望スペースでシップウォッチング。デルタ地帯に造られた人工島にはコンテナ埠頭とばら積み船埠頭があり、4 隻ほどの大型船が荷役中でした。バンクーバー港では手狭になって築港されたもののようです。



ツワッセンからナナイモまで乗船した「コースタル・インスピレーション」。両頭ながら 2 万総トンを超える巨体です。全長は 160m あります。



途中で反航した「コースタル・ルネサンス」。セレブレーション、インスピレーションとの 3 姉妹船です。



「クイーン・オブ・アルバーニー」。1976 年建造で、5863 総トン、1171 名の旅客と、乗用車換算で 280 台の車を積みます。



ナナイモ周辺離島航路の小型フェリー「アイランド・グワウイス」Island Gwawis。2021 年建造の新しいフェリーで、2277 総トン、300 名の旅客と 47 台の車両を積みます。

ナナイモで到着した港は、ナナイモ市の南の端近くにあるデューク・ポイントであり、次に乗船する西バンクーバー行きのフェリーの乗り場はナナイモ市の北端に近いデパーチャー・ベイでしたので、その間の移動にはタクシーで 30 分近くかかりました。なんとか 16 時発のフェリーの時間に間に合ってターミナルに到着しましたが、観光シーズンの金曜日とあって終日満船状態のようで、車の積み込みに時間を要して、到着も遅れて入港する「クイーン・オブ・コーウィチャン」の姿を撮影することができました。出港も 35 分遅れでしたが、この遅れのおかげで、バンクーバー港外で、アラスカクルーズに出航した「クイーン・エリザベス」と「セレブリティ・サミット」を遭遇することができ、ラッキーでした。西バンクーバーのフェリーターミナルには 18 時に到着して、BC フェリーによる船旅を終えることができました。ちなみに、同航路の年間旅客数は約 250 万人、車は 97 万台です。

1 日だけのフェリーの乗り歩きでしたが、撮影できた BC フェリーのフェリーの数は 15 隻にのぼり、同社船隊の約 1/3 となりました。これにも満足することができました。



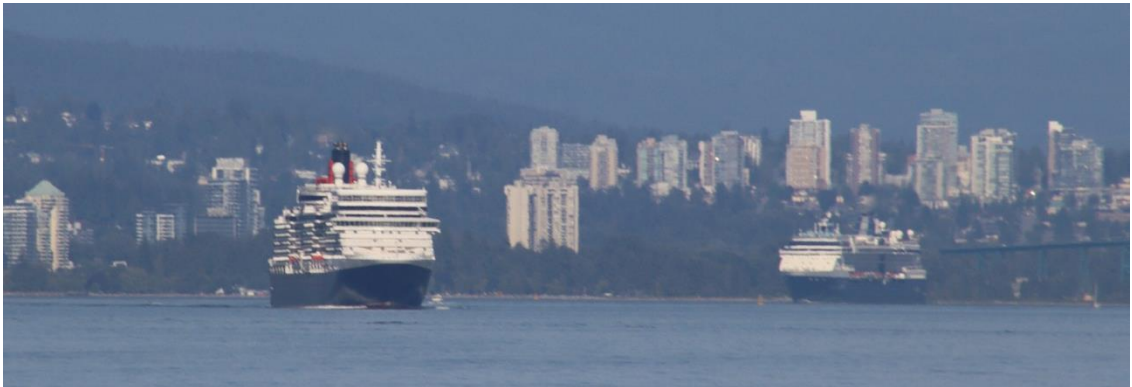
ナナイモのデパーチャー・ベイのフェリーターミナルから西バンクーバーのホースシュー・ベイまで乗船した「クイーン・オブ・コーウィチャン」Queen of Cowichan。1976 年建造で、船齢は 48 才ですが、内部は結構綺麗でした。6551 総トン、旅客定員 1460 名、乗用車換算で 312 台の車を積みます。



「クイーン・オブ・コーウィチャン」の船内です。古い船ですが船内は綺麗で、メンテナンスがよくされていました。



反航した僚船「クイーン・オブ・オークベイ」 Queen of Oak Bay。1981 年建造、6969 総トン。1450 名の旅客と、乗用車換算で 308 台の車を運びます。背景の山はカナディアン・ロッキー山脈です。



バンクーバー港の港外で、出港する「クイーン・エリザベス」(左)と「セレブリティ・サミット」に遭遇しました。



西バンクーバーのホースシュー湾の BC フェリーのターミナルです。切り立った山の下小さな入江にあり、近隣離島へのフェリーが出港準備中でした。



「クイーン・オブ・コーウィチヤン」の着岸を待って出港した「クイーン・オブ・カピラノ」Queen of Capilano。西バンクーバーのホースシュー・ベイと、近隣離島を結ぶ航路に就航しています。1991 年建造、2855 総トン。445 名の旅客と、87 台の車両が積載できます。